

2018年度 第2回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議

議事概要

1 日時：2018年10月2日（火）14：00～16：00

2 場所：中部地方環境事務所第1会議室

3 出席者：

（委員）

| 氏名 | 役職 | 所属 |
|--------|------------------------|--------------------------------|
| 伊藤 恭彦 | 副学長 | 名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 |
| 杉浦 真理子 | 代表取締役 | 株式会社アクト |
| 戸成 司朗 | CSR アドバイザー （共同代表理事） | 住友理工株式会社 （NPO 法人中部プロボノセンター） |
| 彦坂 永利子 | 生涯学習課 課長補佐 | 愛知県教育委員会 |
| 古澤 礼太 | 事務局長 （准教授） | 中部ESD拠点協議会 （中部大学国際ESDセンター） |
| 松本 謙一 | ESD コーディネーター （教授） | 北陸ESD推進コンソーシアム （金沢大学） |
| 水谷 瑞希 | 助教 | 信州ESDコンソーシアム （信州大学教育学部） |
| 永井 均 | 課長 | 中部地方環境事務所 |

（事務局） 一般社団法人環境創造研究センター 福井理事長、清本事務局長、原、富田（中部地方環境事務所）川合主査、西田主査

4 議事次第

- ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
- センター業務の実施報告
 - 第1回ESD推進ダイアログの開催結果について
 - 今後開催予定の催事について
 - 「ESD/SDGsポイント」チェックリストの作成状況の報告について
 - ESD/SDGsコンテンツ（上記・チェックリストを掲載するPRツール）について
 - EPO・ESDセンター（兼用の）リーフレットについて
- 意見交換
- その他
- 閉会

5 会議資料

- 資料1：（資料2～5の）議事要点及び結果報告概要等のまとめ
- 資料2：第1回ESDダイアログ開催結果報告
- 資料3：これから開催予定のESDダイアログ等開催概要案
- 資料4：「ESD/SDGsポイント」チェックリスト作成WGの検討結果（中間報告）
- 資料5：各種ツールの原稿案・素案等
- 参考資料1：2018年度のEPO及びESDセンター業務一覧、スケジュール、実施状況
- 参考資料2：中部地方ESD活動支援センター企画運営会議置要綱
- 参考資料3：中部ブロックの地域ESD拠点
- 参考資料4：他センターの特徴的な取組（北海道センターのアドバイザー派遣制度）

6 議事録要旨

(1) ご挨拶

【永井委員】

- 中部地方 ESD 活動支援センターは前年度に設立され、今年度から活動が本格的にスタートした。そのタイミングで中部地方環境事務所の担当者、センターのスタッフが変わることとなり不安を感じつつのスタートだったが、現在まで順調に業務が進んでいる。皆さまの支援、協力の賜物と感謝している。
 - 本日は、進捗中の各事業について、委員の皆さんから助言等をいただきたく、よろしく願いしたい。
- 事務局による資料確認。及び、「参考資料2：中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議置要綱」について修正箇所を説明。
- 以後の議事進行は、座長である伊藤座長に一任。



(2) センター業務の実施報告

- 事務局が「資料1：(資料2～5の) 議事要点及び結果報告概要等のまとめ」「資料4：「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト作成WGの検討結果(中間報告)」による業務報告。及び、「資料2」以下について資料説明。

(3) 意見交換

【伊藤座長】

- 事務局より、8月6日・ESD ダイアログについて開催報告があったが、共催した北陸 ESD 推進コンソーシアム事務局の松本委員から補足等あればお話しいただきたい。

【松本委員】

- 参加者はユネスコスクールの教員を中心に全部で60人が参加した。教員以外の参加者もあり、開催して良かったと思える交流会であった。参加者からも、来年も開催してほしい、北陸で順に開催を広げてほしいといった意見を頂戴した。

【伊藤座長】

- 10月13-14日開催予定の信州開催について、志賀高原ユネスコエコパーク協議会の水谷委員からご紹介いただきたい。

【水谷委員】

- 申込人数はまだ未確定であるが、期待していた参加者数が集まりつつある。
- 第2回 ESD ダイアログはユネスコエコパークという特徴的なテーマによる開催となる。JBRN(日本ユネスコエコパークネットワーク)の後援も得て、9つあるBR(ユネスコエコパーク)のうち、志賀高原含めて6つのBRが集う機会になる予定である。
- これまでの申込者層をみると学校関係者が多くなっているが、エコパークをテーマとしていることから、エコパークを活用したESDの展開について考える場として、「インフォーマル教育」に言及した内容にしていきたいと考えている。
- エコパークでのESDの推進についてはESD ユネスコ世界会議(2014年)で取り上げられるなど期待はされていたものの、目立った活動実践はあまりみられないまま、今日に至っている。しかし、停滞していた中においても、3年ほど前に、志賀高原ユネスコエコパークが、

信州 ESD コンソーシアムと協力してエコパークと ESD をつなげる展開に取り組みはじめた。今回の ESD ダイアログは、更に全国のエコパークをつなげる機会としての開催が期待される。また、エコパークに加えてジオパーク関係者の参加者もある。これをきっかけに、エコパークをはじめとする様々な地域資源を活かした ESD の推進を拓げていく動きにつながっていけばと期待している。

【伊藤座長】

- 1月の東海開催の ESD ダイアログについては、企画協力している戸成委員から補足をいただきたい。

【戸成委員】

- 昨年度、企業による ESD をテーマに開催したフォーラムが好評だった。今年度は、その次のステップとなるものとして検討した。
- 話題提供を行う事例として推薦したトヨタケ工業株式会社は、豊田市内の旧・稲武町のエリアに移転してきた会社である。元々はアパレル会社であったが、業界全体の経営が厳しくなっていた折に、稲武に移転し、その技術を活かして車のシート等を製造する会社に移行した。トヨタケの社員は労働時間の8割で業務を行い、残り2割で地元の地域活性化に携わることになっている。そのようにして、地元地域の持続可能性をさぐり、地域活性化に取り組んでいる、非常に珍しい会社である。ただし、トヨタケの社員たちはおそらく、自分たちの取組がSDGsやESDにつながっているとは思っていないであろう。
- ESDを次のステージへと進める向上させるために、SDGsの活用が必要との認識が現在広まりつつある。企業それぞれの業態がある中で、企業はどのように取り組むことができるかについて、ESDダイアログで話題提供していきたい。

【事務局（ESDセンター担当者）】

- 1月25日開催予定の ESD 推進ネットワークフォーラムについては、ESDに関わる色々な主体の連携をテーマに、多様な主体に集まっていただき、話していただく場として開催したいと考えている。中部エリアの地域 ESD 拠点や、ESD 推進基本方針を策定した日進市、NPO等のネットワークづくりにより SDGs 推進に取り組む「ペックとやま（環境市民プラットフォームとやま）」などに登壇いただく。トークセッションでは、これらの主体と共に、ESD ネットワークをどのようにしていくべきか話し合っていきたい。

【伊藤座長】

- 若手が集い、トークセッション等に参加する流れにしてはどうか。

【事務局（ESDセンター担当者）】

- 参加主体はできるだけ各団体の責任者等でなく、実践者・実務者に出てきてもらう形にしていきたい。

【伊藤座長】

- そういった場で活動者同士が悩みなどを共有すると安心できる場になるのではないだろうか。
- ここで、本日所用により中座する福井理事長に（中座前に）ご意見をいただきたい。

【福井理事長】

- 「ESD/SDGs チェックリスト」について、さきほど、作成WGにおいてこれまでに検討されてきた内容についての説明が事務局からあった。様々な議論が行われたようだが、当初、「チェックリスト」がチェック・インディケーターになることを期待していたのだが、異なる方向性に動いているように感じられた。「チェックリスト」は SDGs との関連性を明確化するだけのものにするのではなく、何をすると SDGs のゴール達成につながるのか、そこに至るまでのパフォーマンスの度合等もチェックできるものになると良いのではないかと考えていたのだが。

※ 福井理事長は、都合により途中退席

【伊藤座長】

- 福井理事長の意見に引き続き、「チェックリスト」について議論していきたい。作成WGのメンバーである古澤副座長から意見や補足をいただきたい。

【古澤副座長】

- 第2回作成WGでは、チェックリストのシート現案資料タテ軸の取組分野（項目）の構成をどのようにすべきかといった議論が中心に行われた。既存するリスト等の活用もあり得るなど、意見が多々出され、色々と議論を行った。また、取組項目や取組内容に対し、どのゴール項目と関連づけられるかを予め決めてしまう形にして良いのかという議論や、SDGsを知らない人がいきなりこのチェックシートに記入することができるのかという疑問も提示された。
- 色々と留意事項があり、それら全てが盛り込まれたリストにできれば良いか、それでは分量のあるリストになってしまい、実施する側の意欲をそぐことになる。そのため、A3・1枚くらいにおさまる内容にしておくことが適当ではないかという意見に落ち着いた。しかし、どこまで深堀のできるリストにしておくべきかについては、WGメンバーの間でも議論になっていた。

【事務局（ESDセンター担当者）】

- 「チェックリスト」は気付きのためのツールであり、主に初心者向けとし、A3裏表くらいが適当ではないかと考えている。第一段階ではそのくらいでまとめたい。そしてまずは「やってみる」ことから始めたい。
- 取組分野・項目については企業・事業所の活動分野として既存の項目立てがあれば、それを活用・応用するなどしていきたい。

【杉浦委員】

- 主に中小企業を対象にした「チェックリスト」になるとの説明であったが、企業はサービス業やメーカーなど多様であり、事業分野も幅広いが、チェックリストは一種類のみか。

【事務局（ESDセンター担当者）】

- 現時点の案では、企業・事業分野に関係なく、企業に共通する活動分野であろうと思われる項目を抽出し、組み立てていこうとしている。

【杉浦委員】

- シートの下方にある空欄は、その他の項目も記入できるようフリーの項目欄として設けられているのか。記入が難しいのではと懸念されるが。

【彦坂委員】

- 「チェックリスト」はたくさん点数が得られれば良い結果を獲得したといえるものになるのか。例えばシート上にある緑の欄以外にもチェックが入れば高評価になる方法にしたり、どの取組が既に取組済みであるかが確認できるものになっていれば、ポイントは不要という考え方もできるのでは。
- 現案の「チェックリスト」は、やや記入等が難しいものになっているのではないかという印象をもった。

【事務局（ESDセンター担当者）】

- 簡易チェックとしての実施も可能であり、点数はなしでチェックのみを行う方法もあり得るとして、説明書きの「手引き」には記載している。
- 本会議での議論で、「チェックリスト」については、もう少し議論を進める必要があると改めて思った。しかし、気付きのためのツールとして、まずはプロトタイプを作成する方向で進めていきたい。

【伊藤座長】

- SDGsへの取組が進んでいる企業ではなく、SDGsにちょっと関心がある程度の企業に使っ

てもらうリストという想定か。

【事務局（ESD センター担当者）】

- 事業と SDGs との関連性を自覚していない中小企業が主な対象になると想定している。

【松本委員】

- 自覚のためのみのツールとなるのか。企業が何年も取り組んでいく中で、取組状況がどのように変化しているか把握できる仕組みになっていると良いのでは。自分たちが行っていることがポイントの増減等で表され、それを継続的に確認できる形になっていると良いのでは。他社との比較のためのツールではなく、自分たち自身で取組不足となっている部分が確認できる、カルテの記録のように可視化されたものになると良いのではないか。

【古澤副座長】

- ゲーム的要素が入っているとやってみようという意欲につながるのかもしれない。気付きのツールではあるが、自分の団体の現状が点数で表されて公開されていく仕組みになっていると良いかもしれない。

【松本委員】

- 自分自身で記入する「その他」欄も設けられているようだが、自分たちの活動であっても、自分たちが気付いていないものについては記入できない。もしも活動（取組項目）が細かくリストアップされていたならば、自分たちの活動に関連する可能性のある項目を自覚するきっかけにできるかもしれない。チェックを行う側としては、予めリストが細かく挙げられている方がチェックしやすいのでは。

【伊藤座長】

- 昨年度開催されたフォーラムに登壇した味噌煮込み屋さんでは、自分たちの商売と SDGs との関連性を見つけ出す作業を社員に行わせていた。次のステップでは、それを活用してビジネスモデルを考える作業へと移行した。

【戸成委員】

- 「チェックリスト」は色々なレベル、主体によって異なる内容が必要となるものであり、一つのリストを作るのみでは対応できないことが懸念される。
- ステップ論で考えると、まずは「SDGs って何？」からはじまり、次に自分たちがどういう状態にあるかを見るため、チェックリストの該当する項目にマルをつけ、現状を自覚する。そのシートを回収し、データベースに整理し、さらに集められたデータを活用・反映した新しいチェックリストを再構築する。そうすることにより、企業の取組の進化の有無を明示できる指標として創り上げていくことができるのでは。まずは目的を「気付き」に絞って作成し、実際にそれでチェックを行ってもらい、それを回収して整理し、次段階のチェックリストづくりに反映させるという進め方をしてはどうか。

【松本委員】

- 予備アンケートを行う形にした方が良いという提案のようだが。

【古澤副座長】

- 一つの企業の中でも別の部署がやっていることがよくわかっていないケースも多くみられ、別部署の事業や現状に対する気付きにもつながるかもしれない。

【戸成委員】

- 愛知中小企業家同友会と関わりがあり、同友会を介してチェックリストの配布やデータ回収等を行うことができるかもしれない。もし可能になれば面白いことになる。一つの取組が実は二つのゴール項目に関連していることに気づく企業などが出てくるかもしれない。

【事務局（ESD センター担当者）】

- 試行錯誤していく必要があるようだ。ステップアップを前提に、第一段階は調査実施と位置づけた方がよいのではという意見をいただいた。そのあたりを整理して、次の作成WGで議

論を行いたい。例えば、アウトプット・イメージを明示しつつ、調査票を作成するなどして進めていきたい。

【戸成委員】

- 今一番、SDGs に関心を持っているのは経営者協会ではないかと思っている。労働組合の弱体化などを背景に、経営者協会はその存在意義が問われるようになっており、人材教育や社員の家族の介護問題など、様々な問題に目を向けるようになってきている。SDGs に対する関心も高い。協会がビジネスモデルを作り直すにあたり、アドバイザーを務めた縁があるため、もしも調査を行なう場合には、協会の関係者を紹介することもできる。

【事務局（ESD センター担当者）】

- 調査対象などを含めて、戦略的な展開方法を整理したい。その上で再度提示、相談等させていただきたい。

【水谷委員】

- 「チェックリスト」については、どういう対象にどういう場面で活用するかが本日の議論の中心であったように思う。企業の一般従業員が対象になるという説明であったが、「SDGs コンパス」（SDGs の企業行動指針）とセットで活用する教材とすることも考えられる。チェックリストにより事業の振り返りを行う作業上で、従業員がどのような意識をもつかにフォーカスしていくと良いのでは。また、企業の取組分野・項目のカテゴリ分けの仕方については、企業のCSRコンテンツや環境報告書等の項目から抽出できるのでは。
- 「チェックリスト」が自分たちの事業や活動が ESD や SDGs につながっていることの気付きになると同時に、SDGs が将来の目標設定に活用できるものである点もフォローされたツールになっていくと良い。
- 長野県では、企業等に対して SDGs に関連して経産省からのアプローチもある。環境省と経産省が、それぞれ同じ対象に、同じような内容で個別にアプローチするような事業になることが懸念される。

【伊藤座長】

- 自覚や目標設定から次のステップへつなぐことが重要との提議があった。企業の事業は 169 ゴールのどれかに必ず関連する。そのことが「チェックリスト」によって自覚できると良い。

【戸成委員】

- そもそも何のゴールを目指すかということに立ち返ることも重要である。SDGs をマッピングするのみで終わっている企業も多い。

【事務局（ESD センター担当者）】

- ESD センターとしては、「チェックリスト」によって一般社員が SDGs に意識づけされ、人材教育につながっていくことが重要になると思った。経産省など他省庁等から出ているものも教育に関連する部分については活用していきたい。

【戸成委員】

- 企業の人材教育では、アウトサイド・インの人材づくりが重要になっている。企業のトップではなく、従業員の思考回路が SDGs とつながらないと新商品、新事業が創出されないという考え方である。

【中部地方環境事務所】

- 愛知県のサステイナ研究所は大学生と企業をつなぐ取組を展開している。企業が学生に対し、SDGs を題材に課題を出し、学生は、課題をこなすとともに、企業の CSR を作る取組をしていた。そのほか、高校生が地域の環境について学び、発信する「あいちの未来クリエイト部」の事業では、高校生が中学生に出前講座を行うなど、愛知県は世代を超えた交流が展開されている。

【伊藤座長】

- 名古屋市の総合計画では1ページ目にSDGsを明記している。書いておくのみであってはいけない。しかし書いておくことによりスタートにつながる。

【永井委員】

- SDGsの項目それぞれに対し、何が該当するものになるのかといった基準は設けられていない。それぞれの項目がそれぞれの気付きになるよう設定されたゴールである。教育、経済等も含まれており、企業であれば企業の本業と必ず関わってくる。その関わっている部分を自分たちで考えるものになっており、どのように関わっているか自ら考えるきっかけのツールとなりつつある。
- 「チェックリスト」については、「この表によって100%満たされるものではない」といった注記も必要かもしれない。

【事務局（ESDセンター担当者）】

- 「まずは考えてみよう」というワークシートにした方が良いのかもしれない。企業向けの「チェックリスト」は経産省が作成すべきものという見方もされるかもしれないが、全体的な戦略について改めて整理したい。

【水谷委員】

- まずは企業にとっての持続可能性の脅威は何かを考えることから始まり、それに対して現状の取組がどうなっているかチェックし、次に脅威を解決するためにはどういった目標・ビジョン設定を行う必要があるかといったラインの見えるツールになると良いのでは。

【戸成委員】

- 古澤先生が作成した「クイズ」についても説明してほしい。

【古澤副座長】

- 資料中のクイズの原稿案は、急遽、暫定的に作成したものである。内容は、「SDGsについて知ってますかクイズ」になっている。こういう形式のものが好きな人もいるため、SDGsを知ってもらう目的のツールであれば、クイズ形式になっていた方が面白いのではと考えて作成した。
- 例えば、減災・防災は何番のゴールかたずねるクイズもあり、これはSDGs17ゴールの中に防災という言葉はないため、防災は含まれていないかのように見えるが、169ターゲットをみると防災の内容が含まれていることがわかる問題である。マニアック向けのクイズになっている。

【戸成委員】

- このクイズを社員のSDGs教育に使いたいと思った。現在行っている全社員教育で、研修の前後等に使える教材になる。また、クイズのレベル4では、SDGsが企業にとってのリスクと機会の両側面を含んだ内容になっていることについても、ぜひ盛り込んでほしい。

【伊藤座長】

- SDGsの認知度はまだ低い。特に企業関係者以外の医者、教員等のインテリ層での認知度が低いように思われる。

【戸成委員】

- 今回受賞したノーベル生理学・医学賞の免疫抑制分子の発見への研究過程はESDそのものようだという印象を受けた。

【彦坂委員】

- SDGsを打ち出した説明をしても中々予算には反映できないのが実情である。しかし、8月に教員を対象にしたESDのセミナーを開催した際には、多くの参加があり、先生方など現場から、学びたいという熱意を感じることができた。

【杉浦委員】

- ESD や SDGs に関連する交流会や催事等にできるだけ参加するようにしている。しかし、関心のある人は毎回同じ顔ぶれのように、常連の人ばかりが集まるようになっている。広報を工夫していく必要がある。関心のある人ばかりでなく、そうでない人にも届く広報となるよう、知恵を絞る必要がある。

【古澤副座長】

- 先日、SDGs 未来都市が発表された。選定前に、ものづくり・人づくりを標榜する愛知県こそがふさわしいという趣旨で SDGs 未来都市申請のための企画を中部大学が県に提示したが、現場サイドの SDGs に対する関心がそれほど高くなかったようで申請には至らなかった。しかし、知事は関心をもってくれたように感じたため、次年度以降の申請をめざして提案を継続したい。

【中部地方環境事務所】

- 委員の皆さんから環境教育の評価方法について意見をいただきたい。環境教育の成果を定量的に評価することは難しいが、10 年などの期間においての成果を見える化できないかといった議論が行われている。例えば表彰者の数や構築されたネットワークの数、イベントの参加者数、参加者アンケートで「良かった」の回答割合など。他にも評価方法として提案・意見等があれば、ぜひ後日にでも中部地方環境事務所へ提示いただきたい。

(5) その他

- 次回・第3回会議を2月12日14時～16時で開催することを確認。
- センターのその他の今後の予定として、10月13・14日に第2回ESD推進ダイアログ、1月18日に第3回ダイアログ、1月25日にESD推進ネットワーク地域フォーラムを開催予定であることを確認。

(4) 閉会の挨拶

【永井委員】

- 現時点の途中段階の事業について報告を多々行ったが、本日は深い議論をしていただき感謝する。
- 委員の皆さまには、今後開催予定のセンターの行事にも可能であればご参加いただきたい。

